

特色ある学校づくりサポート事業報告書

須賀川市立西袋第二小学校

1 事業の名称 「心豊かな子どもを育てる地域と学校のネットワークづくり」

2 事業実施の背景と学校経営との関連

1) 「須賀川市教育委員会学校教育の重点」の具現化から

心の教育の充実

< キャリア教育の推進 >

< 他人と協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性の育成 >

< 勤労や社会貢献の喜びの体得 >

「確かな学力」の育成

< 「言葉」と「体験」の重視 >

< 「習得型の教育」と「探求型の教育」との調和 >

< 生涯に渡って生きて働く力の基礎の育成 >

健康教育の充実

< 基本的な生活習慣の定着 >

< 食育の充実 >



2) 保護者・地域住民の学校教育に寄せる信頼と期待に努めるために

新しい教育課題について、基礎基本の学力の充実とともに取り組む。

子どもが安全で安心して通え、生活できる学校であることに努める。

3) 本年度 本校教育活動展開の重点から

「開かれた学校づくり」の一層の推進
「確かな学力」を培う教育指導の充実
豊かな心を育む「心の教育」の充実



3 事業展開の具現化

1) 「開かれた学校づくり」の一層の推進

開かれた学年経営 ... 学年経営の充実

学校教育活動についての情報発信

... 学校ホームページの随時更新、公表

学習公開行事の地域への公開と日常的に開

かれた学習参観

本校教育活動に対しての学校関係者評価の導入

地域と連携した教育活動の展開



2) 「確かな学力」を培う教育指導の充実

基礎基本の徹底

全教科・道徳・特別活動等で適切かつ効果的に国語力(聞く・聴く・訊く)を育成する。

学びの基礎となる構えのづくり

課題を友達と協力してよりよく解決する力

の育成

豊富な自然体験、社会体験の保障

3) 豊かな心を育む「心の教育」の充実

図書館教育の推進

道徳教育の推進

児童理解に立ち、自己指導力を目指す生徒

指導の推進

異年齢児童の活動や交流を通して、好ましい人間関係の醸成を図る。

4 事業の実際

1) 地域探検 (春・秋 2 回実施)

ねらい

上級生、下級生、地域の人、地域との関係を見つめ、自分を見つめ、周りの人や地域に積極的にかかわっていかこうとする態度を育てる。

学ぶこと・働くことの意義や役割を理解し、幅広く情報を活用して自分の生き方や進路の選択に生かすようにする。

計画 (春の地域探検の例)

月日	活動内容・予定	配慮事項
5/22	春の地域探検学習オリエンテーション	・ 昨年の地域探検を振り返り、地域探検に向けての意欲づけを図るようになる。
6/1 まで	探検場所の決定 自分の課題の計画づくり	・ 他教科、総合的な学習の時間、生活科との関連に配慮する。 ・ 探検場所別の人数配分 ・ 計画に対する個別指導 (発表対象やまとめも考えて)
6/4	縦割り班での話し合い	・ 班の課題、約束を話し合わせる。
6/11	春の地域探検 地域探検の反省	・ めあて、約束に対する反省をさせる。 ・ 礼状につなげる (国語の学習と関連させ)。
6/25	地域探検のまとめと発表 秋の地域探検に向けて	・ 学年の発達段階に応じたまとめや発表の指導 ・ 世話になった地域の方を招待する。

秋の地域探検も同じような形で実施する。

主な探検場所

大桑原地区... つつじ園、アルファ郡山、ホテル愛好会

大田酢工場

袋田地区 ... 花・イチゴ農家の和田さん、和田印刷

袋田の神社、きゅうり農家の須田さん

米作り農家の佐藤さん

吉美根地区... 共労育成園、愛星幼稚園

養蜜農家の渡辺さん、西袋中学校

なしの共同選果場

その他

身につけたい能力... 学び方、考え方【各教科、特に国語との関連を図り、情報収集能力や調べ方 (メモの取り方、インタビューの仕方)、まとめ方、情報提供の仕方、友達・地域の人とのかかわり方】等についても、一人ひとりの目標となるように課題の持たせ方に配慮する。

秋の地域探検へのつながりにも配慮する。

各班に必ず教師、保護者がついて安全を確保する。

一人ひとりの学習用のファイルに学習の記録を累積していく。

成果と課題

体験活動が一過性の行事に終わってしまわないように、事前指導において児童に体験活動の意義をしっかりと理解させるとともに、仕事調べやインタビューと組み合わせたり、事後にまとめの話し合いや発表会を計画したりした。

それぞれの体験を通して何を感じ、考え方などを振り返り内面化を図ってきた。

キャリア教育における位置づけを明確にし、学習活動や相談活動などとの関連を図って今後とも計画・実践していきたい。



2) スーパークリーン作戦

ねらい

地域のために尽くすことの尊さや地域に役立つ仕事をする喜びを体験し、勤労や奉仕への関心を高めるとともに、地域への愛着を深める。

内容 通学路や自宅周辺等、身近な地域の環境美化活動

計画 (1学期 1回目実施の例)

月日	活動内容・予定	配慮事項
5/10	通学班ごとに計画作成	
5/14	スーパークリーン作戦	各地区保護者や地域の人に依頼し、安全確保・児童の指導に当たってもらう。
5/16	評価・実践	班毎の活動の反省を生かし、朝の校内ボランティア活動を通学班ごとに実施する。 毎週水曜日実施する朝のボランティア活動の意欲づけにつなげるようにする。

1学期、2学期に各1回、計年2回実施

その他

- ・ 事前から活動目的を児童に知らせ、一人ひとりがめあてをもって計画の段階から意欲的に取り組めるようにする。
- ・ 高学年の児童には、リーダーとしての自覚、低・中学年の児童にはリーダーへの協力の仕方等発達段階に応じて指導していく。
- ・ 地域や保護者に事前に連絡し、児童の活動に理解や協力を求める。



成果と課題

今後、道徳や学級活動、総合的な学習の時間の関連を図って実施するようにする。

プリントに活動を振り返らせ、そのプリントを掲示したり放送したりして勤労や奉仕への関心を高めるようにしてきた。

3) みんなで挑戦！草花、野菜の栽培

ねらい

校舎周辺の整備美化に努め、互いに協力して活動することにより、豊かな感受性を育てることができるようにする。

地域の人たちとかかわりながら、環境づくり、栽培活動を通して、勤労の喜びや協力することの大切さに気づき、豊かな情操を養うことができるようにする。

内容

時期	内容	担当
年間	学年毎花壇での栽培活動(種まき、苗作り) 通年を通しての児童による世話	各学年、園芸委員会 地域の方の指導
4月 ~10月	学習園での野菜の栽培活動 通年を通しての児童による世話	各学年、PTA施設委員会 特別非常勤講師、老人会
6月	地区環境緑化コンクール参加	全学年
8月	須賀川市花いっぱいコンクール参加	全学年
適宜	樹木へのプレートつけ 樹木を使ってのネーチャーゲーム	園芸委員会、整備委員会を中心に プレート作成は、緑の少年団で
12月	各学年対抗「落ち葉拾い合戦」	園芸委員会を中心に
1月	春花壇に向けての準備	全学年
2月	活動の反省	各学年

実施状況

道徳の指導、生徒指導との関連

道徳における環境教育のねらいは、「自然や動植物を愛護し、生命に対する畏敬の念を高めるとともに、物を大切にし、約束を守るなど、環境問題の解決に対して責任を自覚し、主体的に関わることでできる心情と実践的な態度を育てる」ことである。本校では、「自然愛、動植物愛護」を低学年、中学年は重点内容として時数を多く配当している。

PTA・地域との連携

常に地域、PTAが学校教育に深い理解を示し、学校緑化活動、花いっぱい活動に協力的である。主な年間の活動としては、花壇の耕起、学習園の耕起、緑地整備のための奉仕活動(年3回)を毎年行っている。地域からの花苗寄贈の協力も続いている。

その他

児童の気づきを大切にし、「見る、触れる、におう、聴く、味わう」などの体験から気づきを生み出すように支援している。

花壇や野菜の栽培には地域の方から指導を受け、地域の大人の方々と児童とのふれあいの機会を多くとるようにしている。

成果と課題

自分達が育てた花や樹木に囲まれて学校生活を送ったり、花や樹木を育てたり手入れをしたりすることで、植物を大切にする心が育ってきている。

放課後や朝、休み時間など、緑化の活動をすることによって、自分達で学校をきれいにしていこうという気持ちが出てきて、水曜朝のボランティア活動や放課後、休み時間の係・委員会活動に進んで取り組むようになってきた。

活動がより自主的なものになるよう、児童会や係活動が中心になって活動できるようにしていく。

保護者、地域の方々に緑化活動に対して今まで以上に理解していただき、さらに協力していただけるような機会を増やしていく。

緑化活動から一步踏み出した自然環境保全への関連を図っていくようにする。

4) 学校ホームページを活用した情報の発信と地域との連携

ねらい

学校が、保護者や地域の方々の信頼に応え、家庭や地域と連携協力して児童の健全な成長を図っていくために、開かれた学校づくりの一環としてホームページを通じ、情報を公開する。

学校のホームページを入りに口に家庭とのコミュニケーションを進め、児童を共に育てる環境の整備に努める。

内容

発信する主な内容...学校概要、教育目標、学校運営方針、教育課程の内容、学校行事、研究活動、クラブ活動、学校だより、教育活動状況、PTA活動、児童会活動等



学習成果を発信し、関係者から評価を受ける
ホームページ開設の利点と留意点
ホームページを開設することのメリットとして

- ・ ホームページへのアクセス数は、一日平均30件程度である。時折、保護者や地域住民より「ホームページを見て、と思った」という話を聞いたり、地域住民や閲覧者から感想のメールが寄せられたりした。
- ・ 学校の教育活動やその成果を掲載することで多数の閲覧者から評価を受ける機会が拡大し、メール等による双方向の交流が期待できる。
- ・ 地域の学校に対する理解が深まってきた。
- ・ 様々な示唆を受けることで新たな発見ができ、その後の学習効果が高まる。



一方で 留意すべき点として次のような点があげられる。

- ・ 校内にホームページを作成するための体制を作り、作成したホームページを定期的に検討し、意見を交えて改善、更新を行う。
- ・ 掲載する情報には、その著作権や肖像権等の取り扱いに十分配慮する。

5 まとめ

地域と学校が連携した地域ぐるみの活動は、自分達の地域を自分達で暮らしやすく変えていくことである。PTA役員、会員、PTA O B ・ O Gが地域での団体や組織の役員であるメリットを生かし、学校を中心とした地域ぐるみの活動と一緒に行動し、事業の共催、合同開催といった活動のネットワークを進め、学校が開かれた組織として地域ぐるみの教育活動と一体化するよう努めてきた。

そして、以下のような成果が得られた。

活動の中心である緑化活動とそれに伴う保護者や地域住民と共に協力してボランティア活動を推進することにより、学校の集団としての雰囲気など質的な高まり（集団への所属感、役割意識、責任感の高まり等）を見せ、それが個人の様々な活動によい影響を及ぼしている。

保護者や地域住民にボランティアとして様々な行事に参加していただくことで、児童の活動や学校の教育活動に対する理解が深まり協力してくださる人が増えた。

縦割り班での活動を行うことにより、異年齢集団活動を充実させることができ、役割意識や責任感が高まった。

老人会、保護者、西袋地域に在住する特別非常勤講師、西袋公民館、子ども達の手による学校緑化活動。授業や総合的な学習の時間への保護者や地域のボランティアの方の参加など活動の輪は確実に広がってきている。地域ぐるみの教育活動は、自分達が「地域の子どもの育てるおとな」に変わっていくことだと考える。「継続できる範囲で、少し無理を」を合言葉に今後とも実りある活動を展開していきたいと考えている。